

## 古くからの信仰の山 大山

実施日 2013年12月14日(土)  
 天候 晴れ  
 リーダー 伊藤 久雄  
 参加者 涌井良明、大村巖、鈴木政三、島本陳重、渋谷賢寿、渋谷京子、遠井謙作、宇野輝代、小名秀悦、石附智子、山本智章、ゲスト(豊田浩樹、山本知章) 計13名  
 費用 小田急1,140円(新宿起算)  
 バス 600円 計1,740円  
 タイム 伊勢原 B S (8:25~8:55)大山ケーブル B S (9:00~9:20)大山寺 (9:25-9:50)阿夫利神社下社(10:10~11:00)16丁目(11:20)ヤビツ分岐(11:40)阿夫利神社本社(11:45~12:25昼食)見晴台(13:25)二重橋(14:00)阿夫利神社下社(14:30)大山ケーブル B S (14:40)

伊勢原駅前バスにのり大山ケーブル駅で下車。

両側に土産物店が並ぶ362段の独楽参道の階段を行くと右にケーブルカー乗り場、左は大山の登山道の女坂の標識が有りそちらから登る。



ミツマタの花が咲き始めた緩やかな道をしばらく歩くと大山寺につく。百段余りの急な階段を上り本日の登山の安全祈願をする。「女坂の七不思議」の立て札を見ながら登って行



くと石を積んだ急な階段になり真冬なのに汗が滴り落ちてくる。

阿夫利神社下社のすぐ下にケーブル駅が有りこれを利用して家族づれの登山者も多く登ってくる。



下社最後の階段を登りきり振り返ると目の前に相模平野、秦野、伊勢原の街並み、日の光を浴び輝く相模湾、

江の島、三浦半島、その向こうに霞んだ房総半島、大島が一望できる。しばらくこの眺望を眺め龍の口からほとぼしる冷たく澄んだ下社の「神泉」の湧水を飲み又元気に出発する。しかしいきなり急な階段になり登りきると今度は大小の石がゴロゴロした山道になる。

今朝は氷点下になっただけで霜柱も顔を出していた。夫婦杉、牡丹岩、天狗の鼻



突岩を見ながら歩を進め16丁目の分岐に来ると蓑毛方面からの登山者と合流し次第に渋滞でどった返してくる。

富士見台に着くと空気が澄んでいけるせいか青空に浮かぶ富士山は素晴らしい眺めである。今朝は相当寒かったようで綿帽子に羽



毛の帽子も。

下社を1丁目、頂上までは28丁目有る。此処は21丁目さらに、大きな石やザレバを縫って登っていく。





27丁目の銅製の鳥居をくぐり石段を登りきるとようやく28丁目の山頂に辿り着く。

山頂は「かながわ景勝50選」の一つに選ばれているだけあって下社からの景観に加え横浜方面や東京、新宿、裏に回れば富士山、丹沢山塊、箱根、愛鷹山等が眺められる。

山頂は寒く5度ぐらいであらうか、コンクリの塀で囲まれ日当たりのいい場所



を確保しバーナーを持参した人はお湯を沸かしラーメンを食べたり、味噌汁、お茶、コーヒー等を飲みながら昼食を楽しんだ。



昼食後メンバー全員で記念撮影をし下界の眺望を楽しみながら見晴台に

向かって下山を始める。霜が溶けたのか所どころぬかっている所もあり又歩きにくい不揃いで段差のある木道を雷ノ峯尾根に向かって下る。

山頂から1時間ほどで見晴台に着く。左前方には横浜の街並みが見え、後ろを振り返るとつい先程まで昼食をとった山頂の電波塔が見える。そこを右に回るように二重滝方向に降りて行く。この辺りはスギ林になっ



ており道もなだらかになるが左は切り立った崖が多くなり落石注意の看板も目立つ。春先に崩落が有り一

時通行止めになった所である。

足がつったり、ストックを3m位落としてしまい回収したりと多少のアクシデントが有り「縁切りの杉」

(昔は呪いの杉と言われていた)にたどり着く。(アクシデントは呪いのせいかな?それとも



お賽銭が少なかったのか?)隣に水量の少ない二重滝を見、すぐに阿夫利神社下社の下に着く。しばらく行くと女坂、男坂の道標が有り今日はゲストが2名参加していたので迷ったが大丈夫そうなので男坂を降りる事にした。

石を組んで積み上げた階段は段差が有り歩幅がせまく不揃いで下りにくい。延々とこの階段を30分程降りやっと大山ケーブル駅に無事に下山する。



これ程階段の有る山も珍しいのではないかな。初リーダーで至らないところが多々あっ

たと思いますが皆さんの御協力により何とか役目を果たす事が出来ました。

有難うございました。

(記&写真・伊藤 久雄)

(写真提供・涌井 良明)